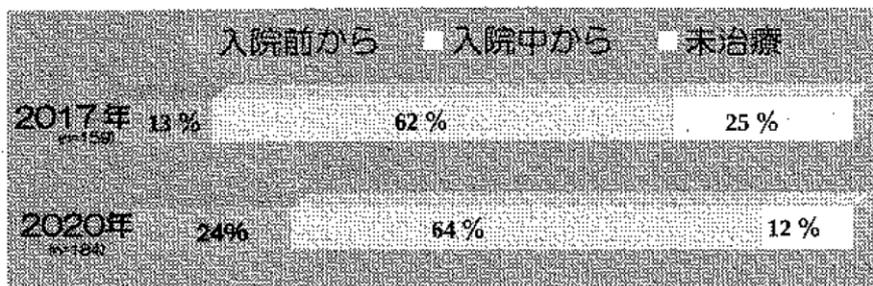


2022年2月4日(金) 北海道医療新聞 掲載

『骨粗鬆症の治療率向上 再骨折予防へ意識改革』の記事

整形外科外来 三浦 由佳 主任看護師(骨粗鬆症マネージャー)



骨粗鬆症治療率は88%に増加

中央 函館 骨粗鬆症の治療率向上

再骨折予防へ意識改革

函館市の函館中央病院(高田竹人理事長、本橋雅壽院長・527床)は、大腿骨近位部骨折患者の骨粗鬆症の治療率向上を目指して疾患の説明や骨密度検査を徹底。治療率アップだけではなく、患者や医療者の意識改革にもつながっている。

同病院は2019年から骨粗鬆症リエゾンサービスを開始。説明など通して大腿骨近位部骨折で入院した患者の再骨折の予防に努めている。

従来のクリニカルパスには骨粗鬆症の項目が入っていないため、術後リハビリ時期に指導用冊子を用いて「疾患、薬剤、栄養、運動、通院」の概要や、再骨折の危険性を説明。退院後も継続して通院することの必要性を説明用紙を用いて伝え、以前は必ずしも行っていなかった通院時の骨密度検査を習慣つけた。

その結果、取り組み前の17年に75%(患者数159人中)だった治療率は、20年に88%(患者数184人中)まで増えた。さらなる強化へ向け、現在2人いる骨粗鬆症マネージャーを、4月から5人に増員。医師や薬剤師、管理栄養士などを交え、多職種で20人前

後の委員会を立ち上げる予定で、骨粗鬆症マネージャーの三浦由佳看護師は「他の部位の骨折患者や、骨粗鬆症になりやすい疾患の治療率向上にも取り組みたい」と話す。